

項目	重点目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
1 「確かな学力」を身に付ける教育の推進	○主体的対話的で深い学びに向けての授業づくり	生徒の確かな学力向上を図ることができたか。(わかる授業の推進)	中間期	B	◇全体的に学力は高いとは言えないが、学習の仕方が身につけば伸びる生徒がほとんどである。◇自主学習の方法を工夫して、診断テストや期末テストに向けての意識を高めることができたので、成績が少しずつ上がってきた。◇学力向上につながるように、授業と連携した学習課題に取り組ませた。◆教科指導はもちろん、学習への意欲付けに努めることが大切だと感じる。◆振り返りのドリル学習を増やす。◆範囲が狭いテストでは成果として出たが、学習内容を定着させるために、今学習していることがどのように生活に結びつくかを理解させながら興味をもたせる。◆1人1人に適した課題の提示などの配慮をしたいと考えている。◆生徒に目標をもたせる必要がある。特に将来の目標を持たせることによって自律できる生徒が育つと思う。	教職員アンケート	3.3	29%	71%	0%	0%
						生徒アンケート	3.1	10%	85%	5%	0%
						保護者アンケート	2.8	16%	53%	32%	0%
		目標値:教職員・生徒・保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇話し合う場面設定をしたり、調べ学習を実践したりすることにより、生徒の学力向上を図った。また、学習方法を明示して学習を促したが、自ら考え意欲を持って学習に取り組むには至っていない。生徒の平均値は上がったが、教師の平均値は下がっており生徒と教師の学力向上の捉え方に違いがある。◆自律学習者、つまり自分で考え意欲を持って学習することができる生徒を育成しなければならない。そのためには、キャリア教育を充実させ、生徒の自律心を高めていく必要がある。同時に私たち教師が魅力ある授業を構築し、生徒の学習意欲を高めていく。	教職員アンケート	2.9	12.5%	62.5%	25.0%	0.0%
						生徒アンケート	3.2	20.0%	75.0%	5.0%	0.0%
						保護者アンケート	2.8	6.3%	68.8%	25.0%	0.0%
	○ICT教育の充実	クロームブックを使った授業改善を図ることができたか。	中間期	B	◇まだまだ技能や知識が不足している。毎時間の活用には至らなかった。◇クロームブックの自主研修ができなかったため、授業での使用頻度が低かった。◇昨年度までの取組に加え、生徒用デジタル教科書の活用やオクリンクを使って音読を録音させるなど幅は広がった。◆他校での活用例から学び、活用場面を増やしたい。◆活発な話し合いに向けての効果的な使い方、授業に応じた使い方を継続して研究する必要がある。◆更にクロームブックの可能性を探り、主体的に対話的な深い学びにつなげていきたい。	教職員アンケート	2.9	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%
						目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇数値はA評価に近付いてきた。教員の意識が徐々に高まってきていることを感じる。オクリンクやジャムボード、キャンバなどのソフトを使った授業ができた。その反面、教科によっては他の教材の方が有益で、日常的に活用することは難しいという意見がある。◆研究途上であるが、使用頻度は増えてきている。教科の特性があり、同じことはできないかもしれないが、それぞれの実践を校内研修で共有する。また、主体的に対話的で深い学びについて研究し、端末を使って何ができるか考えていく必要がある。	教職員アンケート	3.1
		クロームブックを使った家庭学習を実践することができたか。	中間期	C	◇日々の学習活動の中で、継続した端末の活用はできなかった。◇コロナ禍で実技のテストができにくいので、録音機能を使って家庭学習ができた。◇教科書会社から出ているFormの問題を解かせたり、オクリンクを使って音読の録音をさせたりした。◆予習に使用して、調べ学習で時間短縮。授業のねらいに迫る工夫を。◆研修を充実させ、時間毎の復習に端末を活用していく必要がある。◆更に可能性を探り、クロームブックを使った宿題を充実させる必要がある。	教職員アンケート				2.4	14.3%
						目標値:教職員の80パーセント以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇目標値の数値は、中間期、年度末ともに2.4でC評価である。クロームブックを使った宿題の必要性について、教員間または教科間で温度差がある。しかし、生徒に毎日持って帰らせている現状を考え、クロームブックを使った宿題を実践していく必要がある。◆国が求めているGIGAスクール構想の研修を深め、クロームブックの効果的な活用について、全教員が共通理解を図り、実践していく必要がある。	教職員アンケート	2.4
	○家庭学習の充実	家庭学習の習慣化に努めることができたか。	中間期	C	◇毎時間小テストを行うなど、家庭学習を促した。ただ、習慣化したかどうかは生徒によって差がある。◇宿題はすることはできるが、自ら考えて自主的に学習するには至っていない。◇テスト前の学習時間は増えてきており、成果として現れている。◆HPや学年だよりで学習の様子を啓発して家庭でも励ましてもらうようにする。◆課題にかかる時間を配慮した教科連携を図る。◆「あまりできていない」と感じている生徒の割合が高いので、まず、家庭学習の必要性を生徒に理解させたい。自ら考えて学習できる自律した学習者を育てる必要がある。	教職員アンケート	3.0	14%	71%	14%	0%
						生徒アンケート	2.3	10%	10%	80%	0%
保護者アンケート						2.6	16%	32%	47%	5%	
目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA		年度末	B	◇目標値の数値は、生徒・保護者ともに上がり、家庭学習の意識は高まってきている。具体的な実践としては、家庭学習時間調査を行い、学習の取組を視覚化した。指示されたことはできるが、主体的に自ら考え目標に向けて学習しようとする意識が低い。◆生徒自身に自分がどのような生き方をしたいのか考えさせ、学習に対してそれぞれの目標を持たせる。また、全国の中学生の学習状況と自分たちの学習状況を比較させ、学習の必要性について考えさせる。	教職員アンケート	2.8	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	
					生徒アンケート	2.7	35.0%	20.0%	25.0%	20.0%	
					保護者アンケート	2.9	25.0%	43.8%	31.3%	0.0%	
学校関係者評価員の所見	○一人一台の端末が整備されたことにより、教員の研修が必要になり、教員の負担が増えて、働き方改革に逆行しているのではないかと。 ○小学校からの家庭学習の習慣化が大切であり、小中の連携を強化する。 ○現在の取組を継続していくことが大切である。 ○短い時間で効率よく学習させる。	学校の対応	○確かに教員の負担になることは考えられるが、これからの時代に必要なことであり、業務の一つとらえている。 ○端末を使つての宿題を工夫して、生徒にとって有効な家庭学習を推進していきたい。 ○小学校と協議する場を設定し、改善に努める。								

○地域の素材や人材の活用	地域の素材や人材を活用した教育活動が推進できているか。	中間期	A	◇海学習は、地域を生かした非常に良い教育活動だと思う。◇福祉・人権関係でも南予地域の方に話をさせていただいて興味をもつことができた。DE・あ・い講演会を3回開催した。しかし、十分ではなく活動の幅を広げていく必要がある。◆講演の前に意識付けを各学級で行い、考えを深める活動を取り入れてみる。◆地域の素材や人材をもっと発掘していく。	教職員アンケート	3.7	71%	29%	0%	0%
	目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇目標値の数値は、3.5で中間期に引き続き高い。DE・あ・い講演会を月1回計画的に実施し、多くの人々と触れ合うことができた。また海学習や職場体験学習では、地域の施設や事業所の協力を得て活動することができた。 ◆現在の取組を継続実践し、更に多くの地域の人材を活用できるように計画していく。また本校の卒業生の人材を発掘し、キャリア教育を充実させる。	教職員アンケート	3.5	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%
○あいさつの展開	生徒・教職員ともに気持ちの良いあいさつができたか。	中間期	A	◇廊下や階段で生徒とすれ違う際も挨拶を心掛けた。◇いつも声の大きさや笑顔を意識している。◇気持ちよく来校していただけるようにあいさつを心がけた。◆教員から見本を示し、元気なあいさつを継続できるようにする。また、校内にとどまらず、校外でも気持ちの良いあいさつができるように指導していく。	教職員アンケート	3.7	71%	62%	0%	0%
					生徒アンケート挨拶	3.4	40%	55%	5%	0%
					保護者アンケート挨拶	3.3	32%	63%	5%	0%
	目標値:教職員、保護者、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇目標値の数値は、教職員・生徒・保護者ともに高い。教職員は意識して大きな声で生徒にあいさつができています。元気がないあいさつをする生徒が数人いる。来客者に対しても気持ちの良いあいさつができています。 ◆生徒が元気なあいさつができているときに賞賛し、あいさつへの意識を更に高めていく。	教職員アンケート	3.8	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
○人権を尊重する心の育成	全教育活動の中で、「差別しない」「差別に負けない」「差別を許さない」生徒を育成することに努めることができたか。	中間期	A	◇全教育活動の中で、差別だと感じる事象があれば、指導するが、そのような事象はなかった。しかし、部落差別やハンセン病の問題の知識は浅く、差別を許さない気持ちは弱い面がある。◇今の段階ではその心情や態度までの指導ができていない。◆今後の学習を通して、最終的にそのような生徒育成に努めたい。	教職員アンケート	3.3	29%	71%	0%	0%
					目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇目標値は中間期、年度末ともに高い数値を示し、A評価である。いじめはなく、教師と生徒、また生徒同士の人間関係は良好である。全校朝会で人権に関する活動を実践し、差別に関しての意識が高まってきている。 ◆全ての教育活動において、「差別を許さない」強い気持ちを育成したい。また自分の人権意識を見つめ考える機会を持つ。	教職員アンケート	3.4
○人間関係の構築	相手の立場を理解し、互いを思いやる暖かい人間関係を構築することができたか。	中間期	A	◇帰りの会で「良いことをした人」の発表が取り入れられたのが良かった。◇教育相談を実施し、生徒の話を傾聴できるように努めた。◆生徒同士の人間関係の構築がまだできていないため、今後も関わりを続けていきたい。◆「良いことをした人」の発表なら、教師側からも発表するようにする。その際、生徒はもちろんだが、教師のしていた良いことも伝え、さらに広い視野を子どもたちにも提示できる。	教職員アンケート	3.3	12%	71%	0%	0%
					生徒アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%
					保護者アンケート	3.3	26%	74%	0%	0%
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇学校行事や集会時の縦割り班の活動では、全体的には全校生徒が良い関係を構築できている様子が伺える。その反面、相手によって行動が変わる生徒も一部おり課題となっている。 ◆現在の取組を継続実践していくとともに、生徒に日々の声掛けを行い、何か異常を感じたときには、全教員で共通理解を図り素早い対応をしていく。	教職員アンケート	2.9	0.0%	87.5%	12.5%	0.0%
					生徒アンケート	3.7	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%
					保護者アンケート	3.3	31.3%	68.8%	0.0%	0.0%
学校関係者評価員の所見	○愛南町の生徒は、あいさつはよくできていると思う。 ○DE・あ・い講演会の実施はとても良いと思う。講演に卒業生の話を入れることもいいのではないかと。	学校の対応	○地域においても、元気なあいさつができるように支援していく。 ○DE・あ・い講演会の内容については、来年度に向けて協議しより良いものにしていく。							

3 たくましい 心身を育 てる教育 の推進	○部活動の活性化	部活動を通して、たくましい生徒を育成することに努めることができたか。	中間期	A	◇両部活動とも頑張っている。指導に当たっている先生方には感謝しかない。◇技術的な指導はできていないが、サポート等できることを行い生徒の育成に努めた。◆指導力の向上、ゲームのルール等など勉強をしていきたい。◆指導に当たってなくても、積極的に部活動について様子を聞いたり声をかけたりしたい。	教職員アンケート	3.3	29%	71%	0%	0%
						保護者アンケート	3.5	58%	37%	5%	0%
		目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇顧問の教員は熱心に指導を行い、練習に消極的だった生徒も少しずつ前向きになってきている。郡新人総合体育大会では、野球部・バレーボール部がアベック優勝をした。◆生徒は部活動を選択することができないため、それぞれの競技の楽しさを生徒に伝え、意欲を更に高めていく必要がある。	教職員アンケート	3.1	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%
						保護者アンケート	3.4	43.8%	56.3%	0.0%	0.0%
	○生徒指導の徹底 ・いじめ・不登校の根絶	一人一人の理解に努め、問題の早期発見、早期対応を図ることができたか。	中間期	A	◇生徒指導主事を中心に、生徒一人ひとりを見つめ対応することができている。◇あゆみや教育相談を実施し、問題の早期発見に努めた。◆早期対応に努めるために、管理職等に報告・相談を行う。◆油断することなく生徒の小さな変化を見逃さないように努める。◆関係諸機関との連携を図る。◆些細なことも情報を共有していく。	教職員アンケート	3.6	57%	43%	12%	0%
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇職員間で日頃から話しやすい雰囲気できており、生徒の些細な変化を全教員で共有することができている。また定期的に教育相談を実施し、生徒の問題把握に努めることができた。◆全教員で一人一人の様子を共有し、些細な変化を見逃さないように努め、何か問題が起きた時には、組織で早期の対応を図っていく。	教職員アンケート	3.4	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%
	・学校生活の充実	学校生活を楽しく送ることができているか。	中間期	A	◇総合評価は肯定意見が8割以上ありAであるが、楽しく感じていない生徒が数名いることが課題である。保護者の回答にも否定的な意見が1件あった。◆愛南町の学校再編計画が発表され、入学者も少なくなることが予想されている。在校生が少しでも内海中学校に来てよかったと思えるように、全力を尽くしていく。	生徒アンケート	3.2	40%	45%	5%	10%
						保護者アンケート	3.3	32%	63%	5%	0%
		目標値:生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇総合評価はAを維持しているが、生徒によって肯定的になったり否定的になったり、回答が変化している。原因は個人それぞれで違うと思われる。◆原因把握に努め、全校生徒が少しでも充実した学校生活を送れるように取り組んでいく。	生徒アンケート	3.1	40.0%	35.0%	20.0%	5.0%
						保護者アンケート	3.3	37.5%	56.3%	0.0%	6.3%
	○防災減災教育の推進 ・命を守る教育の徹底	「自分の命は自分で守る」という意識を高め、防災減災教育の推進を図ることができたか。	中間期	A	◇避難訓練だけでなく、災害のニュースや訓練放送など機を捉えて生徒と話すようにしている。◇授業でも力を入れて地域で中学生にできることを考えさせた。◇避難訓練前後の指導を行い、自助の大切さを指導し、訓練の大切さを生徒が理解することができた。◆今後の訓練などを通して防災意識の向上に努めていく。◆地域合同の避難訓練の際に中学生としてコミュニケーションが図れるように工夫する。◆日々の生活の中から考えていくことが大切だと思う。	教職員アンケート	3.6	12%	43%	0%	0%
						生徒アンケート	3.8	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%
目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA		年度末	A	◇定期的な避難訓練や地区合同防災学習により、教職員・生徒ともに防災への意識は少しずつ向上している。通学路における避難について考えさせることができた。◆愛南町では、避難所における食料の調達や防寒対策が課題であると感じる。最悪のことを考え、避難所ではある程度の備蓄をしていくことが必要であると思う。	教職員アンケート	3.4	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	
					生徒アンケート	3.8	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	
○健康教育の推進	家庭と連携し、早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き、手洗いの習慣を定着させることができたか。	中間期	B	◇生徒の回答から「早寝、早起き、朝ごはん」ができていない生徒が数名いる。具体的な理由はこのアンケートからだけでは判断できない。保護者の回答からも3割程度、できていないと回答している。◆職員会で共通理解を図り、個別懇談会で「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さについて保護者に理解していただき、家庭での実践を促す。	生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	3.2	35%	50%	10%	5%	
					生徒アンケート歯磨き、手洗い	3.7	70%	30%	0%	0%	
	目標値:生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA				保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.9	26%	42%	32%	0%	
					保護者アンケート歯磨き、手洗い	2.8	16%	47%	37%	0%	
	家庭と連携し、早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き、手洗いの習慣を定着させることができたか。	年度末	B	◇アンケートの数値からは、生徒・保護者ともに意識の変化は感じられない。「早寝、早起き、朝ごはん」については、否定的な回答が若干増加した。◆保護者への啓発を継続実践し、家庭の教育力を高めていく。	生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	3.0	25.0%	50.0%	20.0%	5.0%	
					生徒アンケート歯磨き、手洗い	3.6	60.0%	35.0%	5.0%	0.0%	
	目標値:生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA				保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.9	26.7%	40.0%	33.3%	0.0%	
					保護者アンケート歯磨き、手洗い	3.0	18.8%	62.5%	18.8%	0.0%	
学校関係者評価員の所見	○海学習時に海上にいる場合、地震が起きたときは、救助船に乗って避難することが最善の方法だと思う。		学校の対応	○海学習の講師中田氏が授業の中で、救助船に避難する訓練を行っている。生徒に自助の意識を高めさせる。							
	○生徒の避難訓練だけではなく、教職員の避難訓練も必要である。				○登下校時の避難訓練を実施し、自助の意識を高めさせる。						
○オートキャンプ場入口から元の越までの距離を測り、どちらに避難するか決めておく。		○様々な危機を想定して、どんな場面においても冷静に判断し行動できるように、訓練を工夫していく。									
○「早寝、早起き、朝ごはん」については、家庭の力によるところが大きいので、保護者に啓発していく。		○「学校があまり楽しくない」と感じている生徒については様々な要因が考えられる。このことを念頭に置き、学校運営を行っていく。									
○様々な活動の中で、生徒一人一人に役割を持たせ、自己肯定感を高める。		○定期的にスクールカウンセラーを活用する。									
		○一人一人に役割を持たせられるような学校行事や授業を工夫していく。									

4 特色ある学校づくり	○「海学習」の充実	「海学習」を充実させることができたか。	中間期	A	◇子どもたちと活動することで、海学習の活動意義を確認できた。◇初めての学習だったが、意欲的に取り組んでいた。◇海学習は本校でしかない活動であり、主任を中心に充実した活動になっている。◆その半面、サンゴ調査だけに終わっている面もある。サンゴ調査の結果から環境問題に目を向け、SDGsの活動など、自分たちにできることを実践できるような支援をしていく。	教職員アンケート	4.0	100%	0%	0%	0%	
		生徒アンケート	3.8	75%	25%	0%	0%					
	保護者アンケート	3.5	58%	37%	0%	5%						
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇黒潮生物研究所や講師である中田非斗志氏の協力を得て、生徒は充実した海学習を体験することができている。また、ケーブルテレビでサンゴ調査について発表し、地域への情報発信をすることができた。 ◆調査したことから、自分たちにできることを考え実践していくことが必要である。海学習を更に深化させるために何をすることが良いのか議論をし実践していく必要がある。	教職員アンケート	4.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
					生徒アンケート	3.8	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%		
					保護者アンケート	3.5	60.0%	33.3%	6.7%	0.0%		
○地域とつながる学習	地域の素材や人材を活用した教育活動が推進できているか。	中間期	A	◇海学習は、地域を生かした非常に良い教育活動だと思う。◇福祉・人権関係でも南予地域の方に話をさせていただいて興味をもつことができた。DE・あ・い講演会を3回開催した。しかし、十分ではなく活動の幅を広げていく必要がある。◆講演の前に意識付けを各学級で行い、考えを深める活動を取り入れてみる。◆地域の素材や人材をもっと発掘していく。	教職員アンケート	3.7	71.4%	28.6%	0.0%	0%		
					生徒アンケート	3.6	65%	30%	5%	0%		
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇目標値の数値は、3.5で中間期に引き続き高い。DE・あ・い講演会を月1回計画的に実施し、多くの人々と触れ合うことができた。また海学習や職場体験学習では、地域の施設や事業所の協力を得て活動することができた。 ◆現在の取組を継続実践し、更に多くの地域の人材を活用できるように計画していく。また本校の卒業生の人材を発掘し、キャリア教育を充実させる。	教職員アンケート	3.5	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%		
					生徒アンケート	3.7	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%		
					保護者アンケート	3.4	43.8%	56.3%	0.0%	0.0%		
	5 教職員の資質と向上	○校内研修の充実	教職員としての資質向上のため、研修を充実させ、自己研鑽することができたか。	中間期	A	◇週案に自己研修の具体的な項目を書き、時間を有効に使うことが少しずつできた。◇新しく任せていただいた校務分掌について研修を行った。◆勉強不足なこともあるため、今後も研修を重ねていきたい。人権・同和教育の勉強をしっかりと行い、生徒に指導していきたい。◆「指導者は支援者」を意識した授業実践を組み立てる。	教職員アンケート	3.4	42.9%	57.1%	0.0%	0%
目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA			年度末	A	◇アンケートの回答結果からは、自己研鑽できたと感じている教員が増えたが、更に学習する必要性を感じている教員もいる。 ◆「主体的、対話的で深い学び」について研究し、授業改善を図っていく。	教職員アンケート	3.8	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
○教職員の信用保持		服務規律の遵守し、信用保持に努めることができたか。	中間期	A	◇交通ルールや教師としての規範意識を常に持って生活できた。◆職員間でのコミュニケーションをたくさんとり、お互いに助け合う雰囲気づくりをする。	教職員アンケート	3.9	62%	14%	0%	0%	
		目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇公務員としての意識を持ち、取り組むことができている。 ◆定期的に研修を持ち、交通安全や個人情報の管理など危機意識を高めていく。	教職員アンケート	3.3	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	
6 家庭・地域との連携		開かれた特色ある学校づくり ○家庭や地域との連携の強化	学校の取組みに対する情報発信と情報受信に努めることができたか。	中間期	A	◇学級通信を毎週発行し、生徒の様子を発信できるようにしている。◇ホームページの更新が頻繁にされている。◆地域の方や保護者と話せる時間を大切に、情報受信に努めたい。	教職員アンケート	3.3	33%	67%	12%	0%
							保護者アンケート	3.2	32%	58%	11%	0%
	目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA		年度末	A	◇ホームページの更新や通信の発行等により、情報の発信に努めることができている。 ◆地域の方や保護者との信頼関係を構築し、情報受信に努めていく。	教職員アンケート	3.8	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
	保護者アンケート	3.5	56.3%	37.5%	6.3%	0.0%						
	学校関係者評価員の所見	○海学習に関しては、少しサンゴに特化している感じがする。それぞれの子供たちが興味があることについて調べることがあっていいのではないだろうか。 ○地域の主産業である真珠の学習や貝の育成についての学習もできる。 ○地域の魅力や地域で活動されている人などを知る。		学校の対応	○サンゴ学習を止めることについては難しいと思うが、他の学習についてもできることがあれば考えていきたい。 ○来年度は、サンゴ調査だけではなく、真珠についての学習もさせるように、総合的な学習の時間の内容を改善していく。 ○DE・あ・い講演会で地域の方にお話しをしていただくように計画する。							